

電子複写不可

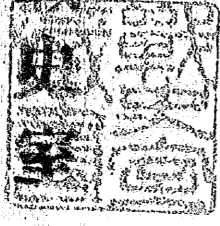
一復史料

第二十四師団司令部史実資料

沖
風

防衛研修所

第一復員局



2400^c-15
5~1

沖台
沖組
63

沖

7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7

第二十四師團司令部史資料

第一部 部隊履歴の概要

一、第二十四師團司令部は昭和十四年十月東京に創設昭和十九年八月沖繩進駐に至る

初代師團長 陸軍中將 黒岩 義勝

二代 根本 博

三代 雨宮 巽

昭和十九年七月六日動員下令同十三日完結

二、同 十五日 東京出發 七月二十下關到着

同 八月 一日 下關出帆 八月五日沖繩本島那覇港上陸

同 八月 八日 中頭郡嘉手納に師團司令部開設中頭郡の防衛を擔

任す

同十二月十一日 司令部は島尻郡與座に移駐第九師團の轉進に伴ひ

島尻南部の防衛を擔任す

9170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

昭和二十年三月二十三日 敵機動部隊による空襲、甲號戰備下令戰

隨部隊に就く

同 三月二十四日 敵船團沖繩本島周縁に現出、艦砲射撃開始

同 四月一日 敵轟手前北谷正面に上陸

同 五月四日 首里北方地區總攻撃に參加

同 五月二十八日 島尻地帯進の爲首里出發同二十九日島尻郡新垣着

同 六月五日 眞榮平に移駐、爾後六月三十日迄島尻地區戦闘に

參加す

第二部

司令部編成定員 約四〇〇名

之幹部の主なる人名左の如し

- 師長 中將 南宮 義
- 參謀長 中佐 木谷 美雄
- 作戰主任 少佐 苗代 正治

後方參謀	少佐	杉森 貢
高級副官	大尉	山口 貞治
次級副官	中尉	國永 登
專屬副官	少尉	久留 敦
兵器部長	少佐	小野 芳楯
高級部員	大尉	田原 勇助
附	少佐	赤倉 德健
經理部長	中佐	小澤 辰二
高級部員	少佐	黒河 幸助
軍醫部長	少佐	都留 寛
高級部員	中佐	木谷 民輝
獸醫部長	中佐	石垣 誠一
高級部員	中尉	伊藤長二郎
通信班長	大尉	川尻 榮

經理課長	六	田中	俊
野戰倉庫長	〃	今井	繁光
軍醫部員	〃	根本	正直
參謀部附	〃	千布	保
		古東	照典

總員四〇〇名
將校四八名准下六七名兵二八五名

一 昭和三十四年八月哈爾濱に於て第二十四師團編成同年十二月國境警備

師團として東安省東北移駐第五軍隸下に入る

二 昭和十九年七月に至る間一意國境作戦特に濕地通過演習及酷寒期の行動に重點を置き練成す

三 昭和十九年七月六日師團に動員下令先づ北滿洲に集結島嶼作戦訓練の實施を命ぜらる

四 七月八日參謀部兵器經理部より所要の人員を派遣し釜山に師團連絡所を開設せしめ各部隊の輸送關係並に兵器彈藥其の他の受領返納業務を處理せしむ

五 七月十一日殘置物件を虎林兵站部隊に引繼を實施す

六 七月十四日東安驛に於て貨車積載完了十五日東安を出發す

七 七月十九日釜山出帆七月二十日福岡に到着す、福岡練成道場に師團司令部を開設す

八 隸下各部隊を北九州に分散到着せんとするや七月二十四日師團は沖繩本島歸郷の任を受く

九 七月二十四日門司に師團連絡所を設置し北九州各地より集結する各部隊の積疊積載兵器其の他の交付等の業務を處理せしむ

十 七月二十六日作戦主任參謀進駐諸準備の爲沖繩島に先發す、部隊は福岡に於て海上輸送開始に於ける必要なる諸訓練を實施せる後

七月二十七日門司に移動門司高等女學校内に司令部を設置乗船準備

廿七月二十九日乗船開始八月一日船團を組み門司港由帆師團搭乗船舶
四隻海上警戒を厳にしつつ沖繩本島に前進す

廿八月五日那覇港に到着師團司令部は中頭郡嘉手納に集結を命ぜらる
直ちに揚陸、那覇市役所に集結す、一部嘉手納に先發、地形偵察設
營を實施す

廿八月八日嘉手納に到着、縣立嘉手納農林學校内に司令部を開設す
那覇に残置隊を渡し隊屬貨物、兵器糧秣の搬送に任せしむ

第四 沖繩運送より敵上陸迄

- 一 農林學校内及其周邊に主として防空陣地を構築す
- 二 八月中旬防衛擔任區域内の地形偵察を了し防衛計畫並に築城計畫發
令せらる
- 三 八月末戰鬥司令部所陣地を中頭郡中央一六〇高地に構築を始め、工兵
第二十四聯隊擔任す

四 十月十日敵第五十八機動部隊に依る艦載機空襲を受く攻撃重點は飛
行場那覇市及海上船艦に在り防衛計畫による乙號隊備下令
負傷二の外軍需品若干の損害あり
兵引續く敵の空襲を誘引し軍需品の損耗絶無の爲揚陸場附近の分散格
列又は防空陣地の強化に努む

六 十月十一日戰鬥司令部所を一六〇高地に移す
廿十月末築城一應完成せるも更に之か強化を期すると共に防禦訓練の
徹底を圖り十一月諸演習實施せらる
八 十一月初旬師團隊備の彈藥糧秣の分散格列の爲の洞窟築成し概ね收
納を終る

九 十二月初旬第九師團の沖繩轉出の爲師團防衛地區の変更命せらる師
團は島尻郡西部を防衛することとなれり
六 十二月十一日司令部一部島尻郡與座に先遣第九師團との申繕地形偵
察設置等を實施す

十二月十一日師團司令部嘉手泊より興座に移駐す一部殘置隊を強し
中頭に於ける軍需品の輸送並に保管業務に任せしむ

主直ちに兵舎構築に興座部落附近に陣地を構築す戦斗司令部所陣地を興
座部落南側高地に工兵隊擔任し築城を開始す

戦斗司令部所附近陣地要圖附圖第一の如し

十二師團豫備彈藥並に植林の格別洞窟構築を開始す(十二月下旬輜重隊
・主に擔任)

十二月一日以來屢次敵偵察あり

十二月月中旬より從來鐵道により輸送しありたる師團豫備彈藥糧秣を急
速に貨車を以て中頭郡より輸送主としては靈嶽興座嶺地區に集積す

十二月十一日師團編成改正實施せらる

師團司令部は管理部輜重及經理部勤務班は解散及自動貨車五に削減
せられたる外大なる變更なし

十二月下旬より興座部落附近に興座部落民の協力を得主として戦車障

碍其の他野戦陣地の強化を圖る

十八敵偵察頻繁として敵空襲公算大となれり

第五 敵上陸より戦闘終了迄

一、三月二十三日敵機動部隊周邊海上に現出、艦砲射撃並に艦載機によ
る空襲頻りなり、同時戦斗司令部を興座部落南側高地の陣地に移轉
引續き興座部落周邊に陣地強化

二、目標となるべき兵舎を破壊整理す

三、四月一日敵北谷地區より上陸を開始す師團は敵の高尾地嶺上陸を嚴
戒しつつ引續き島尻防衛に任ず、興座部落附近艦砲射撃並に爆撃機
烈なり

四、三月二十五日四月上旬迄引續き軍補給廠より軍隊備兵器彈藥等の交
付あり 夜間之を受領各部隊に交付す

五、四月十四日師團は第一線師團として20の右翼に進出することとなる

六、四月十五日作戦主任は謀並に各部の一部津嘉山に先發各部隊進出の